

学校教育目標		心豊かで ねばり強く 正しく たくましく社会を生き抜く生徒を育成する													
a ミッション		小中連携教育の充実による系統的で魅力ある教育の実現				a ビジョン		○ユニバーサルデザインの視点を基に授業改善を積極的に行い、基礎学力が定着した学校 ○生徒の「本気」を引き出し、自己肯定感を高める学校 ○気持ちのいい挨拶と笑顔があふれる学校						尾道市立吉和中学校	
評価計画							自己評価					学校関係者評価			改善計画
	b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	f 目標値	8月	1月	h 達成度	i 評価	j 結果と課題の説明	k 二次評価			l コメント	m 改善案
						g 達成値	g 達成値				イ	ロ	ハ		
資質・能力の育成	授業改善を進め、生徒の基礎的・基本的な学力の定着と主体的な学びを進める	ユニバーサルデザインの視点を生かした授業づくりを通して、生徒が「分かる」「できた」と感じられ、意欲的・主体的に学習に取り組む態度の育成をはかる。	学習のねらいや本時の流れを明確にし、ICTを活用する。さらに発問や指示の出し方等の工夫を図り、わかりやすい授業を展開する。 校内において授業交流を活発化し、全教員が研究主題に基づいた授業を行い交流を行う。（各教員 学期に1回）	生徒による授業評価アンケートの肯定的評価の平均	85%	81.2%	81.8%	95.5%	B	授業において、ユニバーサルデザインの良さを生かした働きかけは、生徒にとって安心できる学習環境づくりとなった。2学期からは具体的な授業の流れ（ステップチャート）を提示することで、授業への取り組みやすさを感じている生徒が多くなった。しかし、学力定着には、まだ様々な課題がある。引き続き、生徒の学習意欲を引き出す課題設定の工夫・改善を図る必要がある。授業研究や1人1回の授業交流を通して、お互いの意見を共有することで、生徒がよりわかりやすい授業の工夫を考えることができた。	7			・ICTをフルに活用して引き続き進めてほしい。 ・授業への取組やすさと集中力・学力定着が比例しているのか。学力定着は学校だけで出来る事ではなく家庭学習の定着ができることの良いのではない。 ・今後もユニバーサルデザインの視点を生かした取組を継続して欲しい。 ・生徒アンケートだけでは、信頼に欠けるので客観的なものが求められる。 ・「安全・安心であたたい集団づくり」に向けて配慮を要する生徒の特性や対応の理解を深めての取組は素晴らしい。 ・8月と比べても達成値が維持しておりほぼ達成できていると評価できる。授業交流を継続し、学力向上を期待する。	今後も、ユニバーサルデザインの視点を生かした取組を有効にするため、長期休業中に特別支援教育に関わる研修を行い、全教職員の専門性を高める機会を設定する。配慮を要する生徒の特性および、対応について理解を深める。 また、授業を支える環境づくりとして、生徒同士の人間関係にも着目し、お互いに認め合い、安全安心であたたい集団づくりの取組を行っていく。 授業交流を通して、お互いの授業から学び、それぞれの教科の授業改善を図る。
		家庭学習の習慣化と、個別最適な学びを進め、基礎的な知識・技能を定着させる。	授業内容に対応した課題を「がんばり」として設定し、授業内容の定着及び家庭学習の習慣化を図る。 各教科で「がんばり」の内容をもとにした小テストを実施し、基礎学力の向上を図る。（週1回） 個別の学習支援にも目を向け、定期試験前、および長期休暇等に補充学習を実施する。（学期に1回以上）	がんばりノートの提出率	85%	80.3%	80.7%	94.4%	B	がんばりノートの提出率は、出題範囲（ポイント）を絞るなど、解きやすくなるような課題の検討を行うことで、1学期に比べ、若干の向上が見られた。しかし目標値までは至っていない。また、提出しない生徒が固定しており、支援の仕方を改善する必要がある。担任や教科担任だけでなく、複数の教職員で関わり、居残りの学習など、粘り強く取り組んでいく。小テストの平均通過率は目標値を下回ったものの、1学期よりも高くなっている。生徒の実態に合わせ、タブレット端末を活用したり、「やったらできた」と達成感を感じられるような工夫や、反復学習の徹底が通過率の向上につながった。 補充学習は、定期試験前や長期休業中に行い、学力向上を図ることができた。また、卒業生等にも3年生の放課後学習に参加してもらい、入試対策や2年生までの復習を行い、効果的に実施することができた。来年度も、計画的に取り組んでいきたい。	7			・個人の小さな成功体験（できた、わかったなど）を積み重ねて成長してもらいたい。 ・がんばりの不提出は家庭での取組で固定しているのか。毎回同じ様な状況に思える。卒業生による学習指導は良い取組だと思う。 ・がんばりは提出しなければいけないという環境づくりをしてほしい。「できた」という達成感を感じさせたい。 ・小テストの通過率が高くなっており、自己評価・取組共に良いが、目標値に達していない理由を分析し具体的な取組について職員で共有する必要あり。 ・学習習慣が定着していない生徒のやる気を喚起することは大変難しい。抱めぬ支援に感謝。 ・学習意欲の向上や学力向上のため、がんばりや小テスト等の活動を維持してほしい。	学習習慣の定着に課題がある生徒も多いことから、学習意欲の向上のために、「がんばり」の内容を工夫したり。タブレット端末を活用することで、生徒の意欲を喚起していく。授業、「がんばり」、小テストを有機的につなぐことで、同じ問題や類題に繰り返し取り組み、学力の定着や自信につなげていく。 補充学習の実施や在り方を工夫することで、一人でも多くの生徒に「できた」「わかった」を実感させ、学習意欲の向上や学力の定着につなげていく。
生徒指導の充実	生徒の主体的な絆づくりを推進し、積極的な生徒指導を進め、生徒の「本気」を引き出し、豊かな心を育てる	教育相談、道徳教育を充実させ、生徒に寄り添いねばり強く心に響く生徒指導に取り組み、行きたい学校づくりを進める。	欠席数が増えている生徒に対して学年担当・生徒指導主事・教育相談コーディネーターで細かな情報共有と今後の具体的な対応を考える機会を増やす。 各教科に加え、道徳・総合・学活などで生徒が主体となり活動できるような内容の充実を図る。	不登校傾向・不登校生徒数 生徒アンケート「学校へ行くのは楽しい」の項目 肯定的評価	前年度比－4人 90%	前年度比－4人 83.9%	前年度比＋1人 85.4%	95%	B	不登校傾向・不登校生徒数は、家庭環境が原因で学校へ来ることに意欲を持つことができない生徒や家庭事情が理由で欠席する生徒が増えた。2学期はSSWとの連携を行い、直接アプローチできた家庭もあったが、課題はまだ多くである。また、「学校へ行くのは楽しい」の肯定的評価の結果については、1年生の評価が1番低く、授業に集中できない雰囲気があることや努力しても周りに認められないと感じている生徒がいることが関係していると考えられる。	6	1		・数字に左右されず一人一人に向き合ってもらいたい。 ・不登校が増えているのが気になる。家庭へのアプローチが地域の方で出来ないか考えてみるのも良いかもしれない。 ・今後も保護者の方や子どもと粘り強く話しをして学校に来れるように取組んで欲しい。 ・教育相談や道徳の時間の内容等について検証すべき。学校へ行く楽しさは、楽しさの質が重要である。 ・学校に行くのが楽しくない生徒が1年生に多いのが気になる。小学校との連携が必要である。 ・不登校生徒への対応として粘り強く家庭訪問を行っており、一人でも不登校生徒が減ればと思う。	不登校生徒や不登校傾向の生徒については、家庭訪問や保護者連携をねばり強く実施することを通して、教職員が気にかけているというメッセージを発信し続ける。また、家庭で課題を抱えている生徒には、学校で本人の話を共感して話を聞くことや生徒の良さを認めて、それを伝えていくことを全教職員で取り組む。また、特別な活動を主体として学級活動や行事を通して、人間関係作りを主体として人的環境作りに取り組む。
		学校行事や生徒会活動など体験学習を充実させ、生徒が「本気」で取り組むための脱前例踏襲の仕掛けを進める。	生徒会が主体となり、生徒の意向を尊重し、全校生徒でよりよい学校作りに携わることができるような場を設定する。 全生徒の意見を取り入れるために委員会についての意見を募集するなど、全生徒会で専門委員会を企画・運営するシステム作りを推進する。	生徒評価による「学校行事に本気で取り組んでいます。」 「生徒会活動（委員会活動）に積極的に取り組んでいます。」の肯定的評価	95%維持 90%	90.2% 78.4%	95.8% 79.8%	100% 88.6%	A B	生徒会執行部と3年生を中心に数々の行事を成功させたことで、3年生はもちろん、その姿が2年生に良い影響を与え、2・3年生の「学校行事に本気で取り組んでいる」の肯定的評価が100%であった。1年生は、中学生として初めての行事で分からないことや不安なことがあり、他学年のような高い評価にならなかったと考えられる。委員会活動については、今までの取り組みを改善したこともあるが、新しい活動に取り組むことができなかったため、評価の変化がほとんどなかった。	7			・学校行事を生徒会が中心になり本気で取り組む姿を上級生が見せて欲しい。 ・生徒会執行部のみでなく全生徒が企画、運営に参加できるシステムが良い。全生徒が主役で本気で取り組む素晴らしさを体感できたと思う。 ・異学年での関わり合いを増やし、新一年生が安心して学校行事に取り組めるように来年度もお願いしたい。	1年生が安心して学校行事に取り組めるように、2・3年生が1年生をサポートするような活動ができるように特別活動の時間などで指導していく。また、1年生には行事の前に、心配なことがないかなど、一人一人丁寧に聞き取り、フォローする体制や対策を考える。学年を超えて関わり合う機会を設けることを通して、行事や生徒会活動への意欲を高め、全校生徒に「本気」で取り組むことの素晴らしさを体感させる。
吉中太鼓	生徒同士、保護者や地域、教職員と響き合う	吉中太鼓で地域や学校、自分に誇りを持たせ、日常生活や将来に繋がる心を育てるとともに、感謝の気持ちを行動で表現できる生徒を育成する。	披露までの過程の中で、技術面だけでなく、礼儀作法や吉中太鼓の歴史や伝統を継承することの重要性を理解させることで、自己を表現できる力を身に付ける。また、新型コロナウイルス対策緩和に伴い、新たに披露する場が増えるため、生徒が主体となって練習を行う環境を設定していく。	生徒評価による「行事やイベントで太鼓演奏を披露したいです。」の肯定的評価	90%	76.2%	82.8%	92.0%	B	子ども祭りや敬老会、トラック祭り、青少年健全育成大会などで地域の方へ向けて太鼓を叩くことや吉和以外の地域で太鼓を叩く経験を通して、達成感を得た生徒が増えた。しかし、3年生だけが行事やイベントで太鼓を叩く機会が多くあり、地域の方や校外で叩く機会がない1・2年生は、行事で太鼓を叩くことで得られる達成感を、さらに太鼓を叩きたいという意欲につながることができていない。	7			・吉中太鼓は評価がとても高く子ども成長に大きく影響していると考えます。 ・3年生が行事に参加する時に1、2年生が手伝いとして参加すると達成感を共有できて意欲が出るのではないかと。 ・太鼓の取組は素晴らしい。大変な努力だと思うが続けてほしい。1、2年生へのアプローチについても期待したい。 ・吉中太鼓をお披露する場がコロナ前と同じようであって良かった。	1・2年生には叩く機会が少ないが、3年生になると多くの機会が増えることを伝え、それらに向けて、はやい段階から3年生で目指す吉中太鼓について目標をもたせることや、行事やイベントで叩くことに対して、1・2年生が憧れを持つことができるように、これまで先輩達が残してきた軌跡について話をする、3年生が実際に叩いた映像を見せるなど、総合的な学習の時間だけでなく、HRなどでも太鼓についても話をするなど取り組んでいく。
働き方改革	職員のワークライフバランスが確立している	個業とならないよう、チームで動き、職員がお互いに頼みやすい職場づくりを進めるとともに、長時間労働を解消する。	学校保護者間連絡アプリ（コドモン）の活用促進を図ることを通して、学校の指導方針や状況を保護者に積極的に情報提供する。（保護者の登録率 90%以上） 衛生懇話会において、業務改善の具体的方法について議論し、業務改善を推進する。（衛生懇話会での議論 毎月）	市教委実施の働き方改革アンケートの質問項目「子供に向き合う時間が確保されていると感じる教職員の割合」「教職員間で業務の手助けなど、互いに頼みやすい雰囲気がある」の肯定的評価の中学校平均との差	前年度比＋5ポイント	昨年度比－15.3	昨年度比－17.9	77.1%	C	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、ここ数年自粛や規模を縮小していた行事の多くが、制限なしで実施された。また、吉中太鼓に関する行事において休日の出勤が増えたり、長年受け継いできた行事等に関するノウハウの伝承が、コロナ禍により途切れており、ゼロから行事を立ち上げる状態が増えている。それらのことから、職員の業務量や負担感が増大している。 経験年数が少ない職員の割合が高く、経験、力量ともに未熟な部分があり、管理職から指導を受けることもある。その際、業務量や負担感の増加と相まって、モチベーション低下につながる面もある。	7			・コロナ禍で若い先生は全てがはじめての経験になり運営がスムーズに行かないように見える。経験のある先生が増えて欲しい。 ・教員にない行事が多く。しかも重いもの（太鼓）の運搬は先生の負担が大きい。改善策はないものか。 ・自粛していた行事等が再開され大変だと思うが、今年度の経験を生かし、来年度は負担軽減することを期待する。	職員の意見を反映させながら、教育の質の向上の視点で、行事の精選を行う。 管理職が職員に対して、業務の進め方、業務の優先順位に関する指導・助言をより丁寧に実施すると共に、日々の地道な取組が生徒の成長につながっていることを具体的な例をあげながら価値付ける機会を増やすことで、人材育成を図る。

【自己評価 評価】

A：100≦（目標達成）
C：60≦（もう少し）<80

B：80≦（ほぼ達成）<100
D：（できていない）<60

【外部評価】

イ：自己評価は適正である。ロ：自己評価は適正でない。
ハ：わからない。